

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 3 月 26 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103452		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホームよってきんさい矢賀		
所在地	〒732-0042 広島市東区矢賀6丁目4番34号（電話）082-510-5088		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103452-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年3月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

新築3年目の2ユニットのグループホームです。ホームの近所には桜並木があり、春には花見を楽しむことが出来ます。私たちは、利用者様の立場に立った優しい対応を目指しています。そして、利用者様の笑顔が見られるよう心からのケアを心掛けています。又、医師や看護師の協力を得ながら、ホームでの看取りを行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は三年前に現在の地に移転し、2ユニットのうち1ユニット9名定員で運営している。事業所では、利用者が安心した環境で最期まですごしてもらいたいという考えから、看取り対応に力を入れており、医師とも継続的な勉強会を重ねている。実際の看取り期の対応では、医師や看護師と連携を取りながら、夜間にも看護師を配置するなど、必要な医療が提供できるような支援を行っている。 事業所の周囲は桜並木のある土手や住宅、マンションなどが立ち並んでおり、静かな居住環境である。また、ショッピングセンターや高速道路のインターチェンジが近く、生活に便利な立地である。また、畑で芋類や豆類なども栽培し、地域の民生委員とも日常的に交流があり、利用者が安心して過ごせるような体制を目指している。

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設当初からの運営理念があり、この理念をもとに各事業所で目標をたて、日々取り組んでいる。	法人の理念を朝の申し送り時に唱和しているほか、毎年、法人の新年互礼会にて各ホームの目標を発表しており、長期目標、短期目標を事業所内に掲示している。職員が共通の意識で業務に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入している。民生委員さんが野菜の苗を提供してくださり、一緒に畑に植えたり、散歩時には挨拶を交わしている。	移転、開設時に町内の方向けに内覧会を開催しており、そこからの継続的な付き合いができています。民生委員からの地域の情報提供のほか、お神輿が事業所に来たり、畑の苗や球根をいただいたり、夜回り隊からも声掛けをしてもらうなど、事業所は地域の一員として日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や町内会議で質問や相談を受けお答えしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	生活の様子や活動内容を報告している。町内会行事や町内の近況を教えて頂き、行事への参加予定を組んだりしている。	運営推進会議では事業所の様子や取り組みなどを紹介し、参加者から意見を求めている。1階のまだ開設していないフロアを町内の会議に使用してもらっているほか、住民の体操の場を利用してもらおうという構想もある。会議を活かしてサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議に家族からの参加を促す意味も込めて、会議録を家族にお送りすることで、事業所運営に対する家族の理解をよりいっそう深め、建設的で多様な意見を家族から求めることにつながると期待する。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	包括支援センターより運営推進会議に出席して頂き、日頃の状況をお伝えしている。	市とは移転開設当初から相談をし、アドバイスを受けており、開設時に住民説明会を行うことで、現在の円滑な地域との交流に結びついている。また、市の担当者や地域包括支援センターとは継続的に意見交換をしており、実際の入居相談など、事業所運営に関し協力関係を築けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束排除宣言を掲げ、日々のケアに取り組んでいる。マニュアルをもとに研修を行い理解を深めている。日中は玄関を施錠せず解放している。食事用エプロンの使用を控え、必要時には直前に着用して頂いている。ベッド柵や待っての声掛けなど職員同士、お互い注意し合っている。	身体拘束排除の理念及び方針が掲げられており、実際に身体拘束はない。言葉の拘束にも注意しているほか、点滴などを受けている利用者に対しては常に傍らで見守り・声かけを行うなど、目が行き届く運営が行われている。年間の教育計画にも盛り込まれ、手当てを出して職員に受講してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	研修により徹底している。職員同士、注意し合い虐待が見過ごされないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社内研修で、制度を学ぶ機会を作っている。必要時には、上司に報告し支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約書、重要事項説明書により十分な説明を行い、理解納得のうえで署名、捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に、家族より要望を伺っている。また、玄関に意見箱を設置し直接話しにくい事を伝えられるようにしている。苦情相談窓口も明確に掲示し、入居時には必ず説明している。	面会時に、管理者が家族からの意見を聞いているほか、腰が悪いので昼寝をさせてほしいなど家族からの詳細な要望に対しても丁寧に応じている。必要に応じ、会議やミーティングで議題にあげ、意見が運営に反映できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りやミーティングの時、意見を聞いている。管理者会議で検討し現場に反映させている。	朝と夕方の申し送りのほか、必要時に随時行われるミーティングや、月1回の管理者会議で検討し、事業所運営に反映させている。その結果、食事に時間のかかる利用者の食材を食べやすいよう切って差し上げるなど、対応の改善に結びついている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	研修や勉強会の為の勤務時間の調整を行っている。資格取得に合わせ手当を設けるなど、努力をたたえている。家庭の事情の変化等に対応し、申出があれば勤務時間等考慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内外の研修の機会があり、資格取得のための援助もされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市や協会主催の研修に参加し、同業者との交流を図っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前訪問を行い、本人や家族からお話を伺い、不安や心配事が少しでも排除できるよう説明し、見学にも来て頂いている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の面接で家族の困っている事などを聞き、それに対する対応を一緒に考えたり、入居後はホームでの様子を面会時やお手紙でお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族から話を聞き、その時に一番必要なサービスを提供できるよう、上司や行政と相談し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の持っている能力を活かし、食事作りや掃除、洗濯などを一緒にし毎日を過ごしている。作業後は感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームでの様子を、面会時やお手紙でお伝えしている。時には家族に相談し一緒に考え、共に支え合う関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前からのかかりつけの病院や美容院に希望があれば、家族に協力いただきながらお連れしている。家族や親せき、友人の面会時には、お部屋でゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。	入居前に利用していた美容院を希望される場合や、希望の病院に通院される場合など、職員が対応したり家族に協力を求めたりするなど、これまでの利用者の関係性を大切にしながら支援に努めている。また、家族面会時に本人とゆっくり過ごしてもらうために、家族分の食事も提供するなどの支援もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性を考慮し、テーブルの席を決めている。食事の支度や作業など必ず職員が付添、一人ひとりに合った声掛けや介助を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了し退去された後も希望時には、家族の相談にのり支援に努めている。他の施設へ転居する際には、本人や家族が困らないように、情報提供や物品準備など協力している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前面接や入居時に本人や家族より情報を得ながら、希望や意向の把握に努めている。日々の様子や会話など個々の生活日誌に記録し職員全員で共有している。聴取困難な場合には、表情などから把握に努めている。	入居前に本人や家族から意向を聞いているほか、アセスメントシートを活用して本人の状況を把握している。また、日々の生活の中で表情を見ながら対応したり、皿にお菓子を盛ってみて反応を見たり、口に食材を運んでみて口を開けてくれるかどうかで反応を見るなど、本人本位に対応が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族、入居前の関係者から情報収集を行い、これまでの経過の把握に努めている。入居後も面会時などの話の中から、情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	共に生活する中で、様子や気づきを生活日誌に記録し把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	今までの生活が出来る限り維持できるよう、本人や家族と話し合いながら作成している。本人の生きがいとなるよう役割づくりを心掛けている。	本人に役割を持ってもらうために、野菜の皮むきや盛り付けなどの作業を手伝ってもらいサービス計画を立て、モニタリングも行い、現状に即したプランになるようにしている。その結果、食器を下げなかった方が箸を洗って片付けるなどの効果が出ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日個々の生活日誌に記録し、大事なことは申し送りノートに記録しながら、全職員で把握し実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	通院時など家族が付添困難な場合、職員が付添対応している。入院時には面会や洗濯物を届けるなどの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のスーパーや、クリーニング店と一緒に出掛けたり、町内会の回覧板を届けるなどしている。隣の公園では、近所の方や子供たちの遊ぶ姿をながめ、穏やかな気持ちで過ごして頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医を希望される場合は、そのまま継続して頂いている。受診時には様子を家族に伝えている。協力医の往診を受けながら、必要時には適切な病院を紹介して頂いている。	事業所の協力医に二週間に1回訪問診療をしてもらっているほか、必要に応じ往診も行っている。入居前のかかりつけ医を希望する利用者や、専門医への受診の際は職員が付き添っている。身体状態の悪化した利用者には毎日往診してもらうなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の生活の中で、いつもと違う様子や気づきは看護職員に報告している。必要時、協力医に連絡し受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が付添、様子を伝えている。毎日面会に行き、洗濯をしたり、医師や看護師より経過を伺い早期退院にむけて努力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合や看取りについて説明している。状況の変化に応じて本人や家族の意向の確認をしながら、協力医・看護師と協力し対応している。	重度化した際の対応や、看取りについても家族に説明を行っているほか、看護師による夜間対応や協力医による頻回な往診など、医療と密に連携をとって対応がなされている。がん末期の方も入居され、ホームで看取りが行われるなど、利用者が安心して最期を迎えられるような体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故対応マニュアルを作成し、それに従って研修を受け、学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年2回行っている。台風や大雨時には、避難情報に注意し早めの避難を心掛けている。火災時や災害時には、初期の避難が大事なので、事業所近隣の職員が駆けつけられるよう連絡網を作成している。	夜間想定と、昼間想定で年2回避難訓練を実施している。近隣の職員も駆けつけられるように緊急連絡網があるほか、緊急通報装置も設置している。また、消防点検では消防署が来て分からないところを質問するなど、全職員が緊急対応できるように努めている。	災害対応に対する地域からの理解を深めるため、例えば近隣で非常災害が起きた時に、備蓄水の提供や風呂の使用など、事業所としてできることを地域に情報提供を行うことで、地域との協力体制が築ける第一歩となるような取り組みも期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	社内研修で学んでいる。毎日の生活の中で職員同士、お互い注意し合い個々の人格を尊重した言葉づかいや態度を心掛けている。	例えばトイレ誘導の際の職員の声掛け方法や、トイレの扉が開いたまま介助がなされていないかなど、一人ひとりの人格を尊重した対応になっているかどうか、注意し合っているなど、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々の意思決定を大切にし、食べたいもの、飲みたいもの、どうしたいかなどを聞く場面を設定し、自分で決定できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホームの流れはほぼ決まっているがその中で、利用者の希望を聞きながら、散歩や作業などそれぞれ過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日頃より、その人らしい服装で過ごせるようにしている。外出時には、お化粧などでおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備を一緒にしている。誕生日には好みの献立にし、季節や行事に合わせた食事を楽しんで頂いている。	献立は専門の業者が立てており、それに即した食材が配達されるが、利用者の好みや季節に応じて、事業所でアレンジしたり一品加えたりして提供している。また、近所の人がタケノコを持ってきてくれたり、事業所の畑でできた作物も出している。特別な誕生日食や、ミキサー食などにも個別に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食の食事量や水分量は、生活日誌に記録し把握している。病状や体調に合わせ水分を調整したり、食欲のない方には代替品を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食前には嚥下体操を行い、誤嚥の予防に努めている。食後には口腔ケアを行い、自力で困難な場合には介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排尿や排泄パターンを把握し、トイレ誘導に役立てている。利用者のサインを見逃さないように気を付けている。ベッドサイドにはポータブルトイレを設置し、気持ちよく排泄できる事を心掛けている。	一人ひとり排泄の時間を計算し、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。最近は日常生活動作が低下している利用者も多く、必要に応じてポータブルトイレを使用しているなど、できるだけトイレで排泄ができるような支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表に記録し、排便の状況を把握している。一人ひとりに合った方法で、早朝に牛乳や白湯を飲んで頂いたり、運動を心掛け便秘の予防を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	午後のおやつ前から夕食前にかけて、入浴して頂いている。入浴前には検温し、体調を確認後実施している。季節に合わせて、しょうぶ湯や柚子湯を楽しんで頂いている。	入浴は、週3回程度午後に入ることができる。浴室や浴槽は家庭的なものが設置されているほか、リフト付きの椅子が設置されており、介助する方もされる方も安全に入浴することができる。脱衣場にも暖房を設置するなど、健康管理にも注意しながら、菖蒲や柚子湯など、季節に応じて気持ちよく入ってもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	昼食後には、体調に合わせ午睡 している。定期的に、シーツ交 換や布団干しを行い気持ちよく 眠って頂けるよう支援している。 季節に合わせ、掛物を準備し寒 い日にはアンカで布団を温める などしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	お薬手帳や、説明書を読み把握 している。服薬時には必ず名前 を確認し、服薬して頂いている。 体調や症状の変化に気を付け、 必要時には医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	一人ひとりの力に合った作業を 、職員と一緒にしている。食事 作りや洗濯、掃除などを体調に 合わせ行っている。季節の行事 など楽しんで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける るように支援している。	天気や体調に合わせ、散歩や買 い物に出かけている。家族の協 力を得ながら、墓参りや自宅に 帰るなど支援している。	近所への外出のほか、ショッ ピングセンターや外食などにも 出かけている。家族が墓参りに 連れていけるような支援も行っ ている。また、事業所で車を用 意しているほか、法人全体で雇 用した運転手により、車を利用 した外出などもできるように配 慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	預り金として家族より預かり、 外出時には買い物など楽しんで 頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけたいときには子機を使用し、ゆっくり話して頂いている。手紙の投函に付き添ったり、代わりに投函している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地良く過ごせるよう、室温に気を付け、テレビなどつけっぱなしにしないようにしている。季節感のある壁画作りを一緒にし、飾っている。ソファやクッションを置き、くつろいで過ごせるよう配慮している。	広い空間は風通しもよく、採光も程よくゆったりとした空間になっている。また、ソファなどを家具の配置を工夫したり、利用者同士が気持ちよく過ごせるような席の配置を行ったり、利用者が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファとテーブルを置き、それぞれ好みの場所で過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人の使い慣れたタンスや鏡台などを持ち込んで頂き、お部屋づくりをしている。家族の写真や自分の作品など飾り、本人にとって居心地の良い居室づくりに心掛けている。	居室には、馴染みの家具を持ち込むこともできる。また、医療依存度の高くなった利用者のため、詰所と扉で隣接し、すぐに職員が対応できる部屋があったり、間仕切りを工夫することで夫婦で入れる居室などもある。思い思いの写真を貼ってもらうなど、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入口などの段差を解消し、廊下には手すりをつけ一人でできる事の支援に取り組んでいる。見守りや声掛けを行いながら、怪我のないよう気を付けている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームよってきんさい矢賀

作成日 平成30年4月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策の強化	地域との相互協力ができる	運営推進会議で話し合う	1年
			災害時の安全な避難ができる	水害・地震時の非難訓練を強化する	1年
2	4	運営推進会議の出席者に変化がない	運営推進会議の出席者を多様化する	出入りのお店屋さん、町内会、生活課、近隣の方々に意見や思いを聴かせて頂く	1年
3					
4					
5					
6					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。